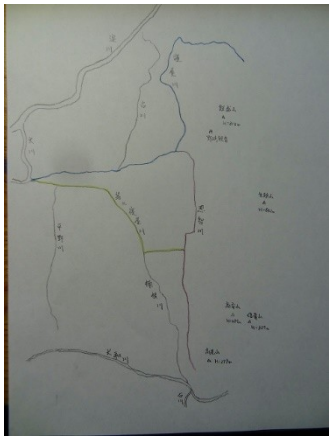
日本あちこち河川遡行記（第 224 回）

大阪 1-4-2. 恩智川（その 1）平成 30 年 10 月 8 日（月）快晴

久しぶりに 9 時過ぎの電車で東に向かう。今日は帰りの時刻を気にする必要が無いのでゆっくりと支度をして駅の無人みどりの窓口の機械でジパングの割引切符を買う。テレビ電話に出てきた JR 西の係員は当方の新幹線を使わない申し込み書を見て、「乗車券だけを記入されていますが新幹線は使わないのですか！」とのたまう。遡行に高い新幹線を使う訳にはまいりません。

片町線「住道」駅で下車し、ちょうど 12 時なので先日ぶらっと入った「王将」に今日も入り、餃子などを食べてエネルギー充填 100 パーセントで歩き始める。目指すは「恩智川」の寝屋川との合流点近くの橋である。最初の橋である「住道新橋」に向かう商店街の角に派手派手なたこ焼き屋が有る。たこ焼きでビールを飲む輩がいるのかいな。橋の横の高い壁には野崎参りの絵が大きく描かれている。現実の地形とは全く違う夢のような景色である。



00.河内平野の川平面図

01.住道駅近くのたこ焼き屋はでかい

02.高―い壁をキャンバスにして描いたどー

橋は高いコンクリート壁の途中をくり貫いたような高さに架かり、橋の両端

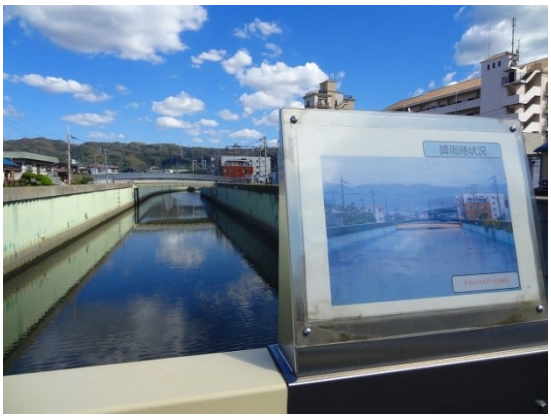
には増水時に締め切る門が有る。ここにも都会ならではの沈下橋が有る。締め切られると心細いやろなー、橋さん。

03.最初の橋は壁を切り裂いて向こうへ

04.増水時には門を閉め沈下橋にするのだ

橋桁の様子は全く見えないので次の上流の「竹橋」から双眼鏡で見る。両側を高い鋼管矢板で覆われた川は完全人口工作物の姿で、その間から件の橋が顔を出している。反対側を見れば三番目の橋の架け替え前の姿の写真が高欄に掲げられている。彼方の現在の橋と見比べることができて面白い。

05.上流から見ればこういうことにの
なりまんねん



06.竹橋の高欄には上流の「三箇大橋」以前の姿の写真が

南側の壁沿いの道を東に進むと件のまっさらな歩道橋が狭い道路の上を越えて川を渡っている。ループ状の坂道と階段と僅かな高低差にもかかわらずエレ

ベーターまで備わっている。日本一の歩道橋やー。この「三箇大橋」の架かっている所は昔の「河内街道」の道筋にあたるとこ解説版が有る。ループの中心の小広場にはこの橋の架け替えまでの過程が解説されている。住民の協力に対するおまけがこのエレベーターなのだ。

07.三箇大橋は「河内街道」の道筋にな
あたる

08.三箇大橋架け替えの過程が分かる

09.緩やかな斜路とエレベーターまで
整備

10.日本一の歩道橋やー

片町線の橋を潜ると川は直角に曲がり南からの流れとなる。片町線の大きな橋の真下には小さな歩道橋が架けられ、線路からの排水管の出口が歩道橋にあたるので更に下に延ばされている。上下の橋は河川整備と併せて一体に計画、架設されたのだろう。

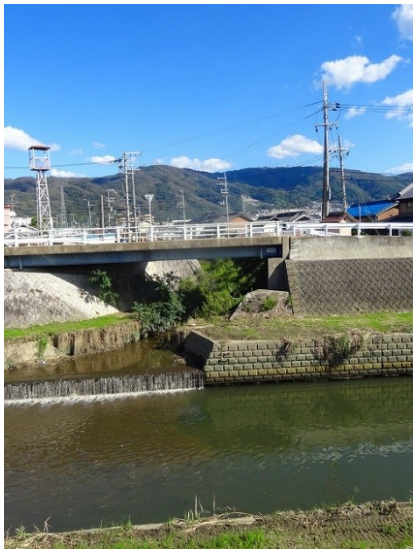
11.上の片町線の橋と下の歩道橋は仲良しだ

左岸側の塀沿いに快晴の空の下気持ちよく歩いていく。今日も多くの道路橋と水管橋と巡り合う旅になる。やがて鋼管矢板に囲まれていた川にコンクリート製ではあるが河川敷が現れる。数人が釣りをしているがマジかよ。

12.コンクリートの河川敷が現れる

東の生駒山脈を見ると青空に雲が浮かび山頂部の鉄塔群が良く見える。恩智川にはこの山並みの西側の水が流れこむので、大雨の度に度々浸水被害が出ていた。そのため数々の対策が取られてきた。府道 168 号を超えると高い壁が無くなり、左岸側は土手の上の道となり道の西側には公園が続く川らしい川になってきた。

13.青空と雲の下に生駒山のテレビ塔が並ぶ



14.生駒山系から幾筋もの川が流れ込む

15.左岸側には遊歩道と公園が

生駒山の山頂部の施設が目眼でも分かるほど近くなってきた。子供ころから在った山頂の飛行塔も見えるぞ。山頂には 6 本のテレビ塔がズラリと並んでいるが、5 本は対空昼間標識の赤白マンダラ模様であるが、1 本はマンダラが無い。後発のテレビ大阪の塔かもしれない。かつては高さが 60m 以上の鉄塔などは昼間標識として赤白マンダラの塗装と夜間用の赤色灯火を取り付ける必要があったが、本四の計画、検討時に航空局にかけあいマンダラの解消と代替えとしての高輝度白色閃光灯設置を実験をしつつ認めてもらった経緯がある。認可以降に建てられた塔なのかもしれない。

16.望遠レンズが捉えた山頂遊園の飛行塔

17.テレビ塔が 6 本並んではる

「　芝大橋」の手前まで来ると生駒山の北西の沢からの小川が恩智川に合流している。水はほぼ透明でさすが山の水である。

18.ここでも山からの川が合流

府道の南側には東大阪市の清掃工場が顔を出している。こんな市街地でも他に適地が無かったのか工場が有る。中小企業の工場の多い地域なので環境上は変わらないから受け入れられたのだろう。川沿いに南に向かうと西側の民地の向こうに清掃工場の高い煙突が 3 本もあり、構内は広い。東大阪市は布施、河内、枚岡の 3 市が合併したので、清掃工場もそれぞれの地区毎に区別されているのだろうか？

19.市街地の中に清掃工場が　　20.広い敷地には三つの清掃工場が有るぞ

清掃工場の南の土手下にはご当地らしい金属加工の中小企業の工場が並んでいる。大きなプレス機のガシャンという音も聞こえてくる。日本の物造りの原点がここに有る。

21.東大阪らしい金属加工工場が並ぶ

やがて中央大通りの国道 308 号、阪神高速東大阪線、近鉄けいはんな線が川を越える所に着く。地表部は国道と阪高のオン、オフランプの出入り車線、上空には阪高本線と近鉄線が頭上はるか上を通過している。吉田駅まで地下鉄だった線路が生駒山をトンネルで越えるため急こう配で上がってきている。地下 10m の駅からトンネル入り口まで 50m ほどを一気に駆け上がるのだ。知らない乗客は地下からいきなり見晴らし抜群の高さに景色が変わるのにビックリポンだろう。

22.近鉄けいはんな線の橋は頭上高く

多　車線の橋の上を横断するのは大変である。橋のすぐ南に、今度は生駒山の南の「暗峠」からの流れが合流している。流れを感じなかった川も緩やかに流れているのが分かる川になってきた。

23.暗峠からの水もここに到着

更に南下を続け府道 702 号の橋際に来ると南西側に広い公園が広がっている。遊歩道もここで途切れ公園に向かわざるを得ない。公園は「花園中央公園」といい、その中身は恩智川の増水時の遊水地である。第二寝屋川の最後に出会ったあの遊水地と同じ役割を担った遊水地であるが、こちらは池も樹も多い公園らしい遊水地である。ここも幾段階にも水を貯水するゾーンに分かれ、その溜まる頻度によって公園の役割、施設を変えている。頻度の高いエリアは只の荒れ地で、次が池のある公園、そして施設のあるエリアと格が上がっていく。

24.「花園中央公園」の案内地図

25.この公園、実は遊水地なのだ

公園エリアでは秋空の元多くの子供連れの家族がのんびりと休日を過ごしている。河内平野では希少な憩いのエリアである。

26.左からの増水はまずこのエリアに入る

27.休日で多くの市民が公園で寛いでいる

公園の中を通過して再び土手の遊歩道に出る。北側を振り返れば増水時のオーバーフロー水用の右岸よりも低いコンクリトの堤防が伸びている。

28.南側から越流堤を見る

300m ほど進むと西側に近鉄の東花園検車区が現れる.車両の留置状況が見えないのでカメラを塀の上に持ち上げてカシャ。特急車が写っていたぞ。

29.塀の上からシャッターを押すとこの景色だった

車庫沿いに遊歩道をさらに南に進み 500m ほど歩くと近鉄奈良線が川を越えている。その線路との間には金網が貼られ前進は能わず！行き止まりなら手前にその旨の看板を出しておけよ！やむなく来た道を戻るが、疲れた足にはこたえるなー。

30.近鉄奈良線の橋の手前で遊歩道は行き止まり！

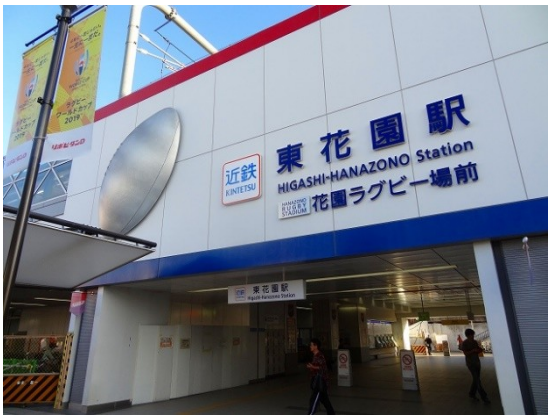
車庫の北端の道を西に進むと彼方にラグビー場が見える。すぐに左折して東花園駅に向かう道を進む。足元のマンホールの蓋の絵柄に 2019 年ワールドカップの字が新しく挿入された蓋が有ったのでカシャ。すぐ隣には消火栓の蓋が有り、漫画的な絵柄で当方はこっちの方がええなー。

31.ワールドカップ版が有ったぞ

32.こっちの方が好きやなー

駅前の絵地図が有ったのでカシャ。この駅はラグビー場に近いので元は臨時駅で試合のある時のみ電車が停まっていたが、今は車庫に出入りする最寄り駅で高架2面4線の堂々たる駅になっている。駅入り口には大きなラグビーボールが有る。今日はここまでとしてホームに向かう。

33.車庫の横を往復させられたのだ



34.駅入り口には巨大なラグビーボールが

やって来た電車は尼崎行きで阪神車である。ドアの上の路線図と列車種別と停車駅が大きな図面で描かれている。左側上段に近鉄奈良線、右側上段には阪神本線と難波線高速神戸線、下段に山陽電鉄線が記入されている。梅田が奈良線よりも南に有るようになっているのは怪しいが、その複雑な列車種別に苦労して作ったんだろうな。

35.阪神車の扉の上には巨大な列車種別と駅名がずらりと

本日の歩行距離：9.1km。調査した橋の数：32。
総歩行距離：10,102.7km。総調査橋数：12,559。
使用した 1/25,000 地形図：「生駒山」（京都及大阪 8 号-2）、「信貴山」（和歌山 5 号-1）